

自動車分野での伸張をより確実に。 「クルマの軽量化技術展」で 当社の技術力、製品力をアピール!



日東精工中期経営計画「日東パワーアッププランFINAL」において、重点課題のひとつが自動車分野の伸張です。そしてその実現のためのキーワードが「軽量化」。1月18日から20日まで東京ビッグサイトで開催された「第7回クルマの軽量化技術展」に当社も出展しました。今号のニュースレターでは同展示会と出展した製品を中心にご紹介していきます。

自動車分野、ファスナー (工業用ねじ)の勢力分野が変わる!

当社は精密ねじや極小ねじをはじめ、セルフタッピングねじ(いわゆる雌ねじ・雌ねじ加工を必要としないことから省力化、軽量化、コストダウンなどに貢献)を強みとしており、既に家電やパソコン、スマホ、光学機器、住宅機器、医療機器など幅広い分野で採用されています。もちろん自動車関連においても、ヘッドライト、エアバッグ、シートベルト、カーエアコン、ワイパー、センサー、シフトレバーなどに当社ファスナー事業部の製品が多数採用されており、また産機事業部でも自動組立機械(ねじ締め機)が堅調です。こういった既存の取引先様を大切に、よりよい製品を提供していくと同時に、いわゆる重要保安部品への新規採用を目指しています。

たとえばエンジンやミッションなどエンジンまわりは過酷な状況で高い安全性を求められることから「セルフタップ」での軸力が課題でしたが、当社では「タップタイト2000」に軸力安定剤「フリックス009」を組み合わせ2段構えで、安



全面でのハードルをクリアしています。実際、セルフタッピングねじの重要保安部品への採用はすでにアメリカやヨーロッパなど海外自動車メーカーでは実現、実績を積み上げていますので、国際競争力という観点からも、国内メーカーでの採用は必至であると予測され、この採用が本格的に進めば当社の強みがより発揮されることとなります。

これまでとは違う製品& パネル展示で来場者への興味喚起。 名刺獲得数は過去最多

さて今回の東京ビッグサイトで開催された「クルマの軽量化技術展」では、いくつかの新しいチャレンジをいたしました。そのひとつが各クライアント様の協力を得て当社製品の自動車用途への採用実例をコーナー展示したことです。メーカー名は公表していませんが、左の写真のようにワイパーモーターには「アルミタイト」、ドアラッチには「ギザタイト」といったように実際の事例を全10種類展示。もちろん、これらも当社の採用実績の一部にすぎませんが、実用例をその場でまとめてご覧いただくことで、イメージを広げ各製品への理解度をより深めていただき、さらに当社日東精工の信頼度を高めていただくことにつながられました。

また、紹介パネルも今回の展示会に合わせて一新。従来は当社製品の特性をアピールするため、いかに強い、いかに軽い、あるいはコストダウンなど

に貢献するかなどを製品別にラインナップしていましたが、この製品カタログを拡大する手法を一步すすめ、アルミ、樹脂、CFRPなど、この素材にはこのねじがおすすめといったように相手素材別にすることで、より来場者（お客様）ニーズに合った展示となりました。



軽量化へのアプローチを ステージアップさせる「タフアルム420」

2016年12月20日に本格受注をはじめた「CFタイト」も展示、これは自動車や航空宇宙業界での軽量化に欠かせない炭素繊維強化プラスチックCFRP板に対し、強度低下を抑え安定した締結を可能にしたもの、これまで不可能といわれていたCFRPへのセルフタップを実現したものです。

そして今回、高強度アルミ製ボルト「タフアルム420」も初出展。これまでは「素材の強さ」「締結への安定性」への不安からアルミ製の部位の締結にアルミ製ボルトが採用されてきませんでした。この

課題をクリアし、鋼の3分の1の軽さ、同質金属締結での耐電食性、リサイクル性を向上させ、十分な強度や軸力を確保したもので、今回、初めて参考出展したものです。さらにもう1点、「鉄カラー&インサートナット廃止ねじ」も出展。従来のボルト締結に必要なインサートナットや鉄カラーを廃止し、新発想のセルフタップ化を実現したもので、圧倒的な軽量化と、クリープなどが発生してもガタツキや脱落が起こらないものです。こういったファスナー製品または事業部の期待の星を多数展示しました。



そのほか「ねじロボSR566Yθ-Z」に新製品のNXドライブSD600Tを搭載しアルミ板にアルミ製タップピンねじ（エスタルフアZ）の締結を実演。あるいはマイクロバブル洗浄装置「バブ・リモ」では有機溶剤不使用で油分洗浄のデモンストレーションを行い、ファスナー事業、産機事業、制御システム事業の3つの事業部が連携を図りながら「締結分野のトータルソリューション」を展開しました。

こういった新しい試みが、当社ブース訪問者数（名刺交換者数）最高の成果となりました。



日東精工の台湾、現地法人「旭和螺絲工業」が 日本優良企業表彰を受賞しました

2016年12月22日、台湾・高雄市『老新台菜』において「2016年度高雄市優良日本企業表彰式典」が開催され、当社日東精工の現地法人「旭和螺絲工業股份有限公司 (SHI-HO SCREW INDUSTRIAL CO., LTD.)」が表彰されました。この表彰は、長年に渡り高雄市の経済発展に多大な貢献をし、もっとも重要な外資である日系企業を讃えるため、高雄市が2010年に創設したものです。7回目となる2016年度は3社が選出され、当日は表彰式典に続き懇親会も開催されました。

「旭和螺絲工業」は1969年に設立、自社で工業用ファスナーを製造販売する一方、日本の日東精工製品を販売する海外拠点であり、今後ますますグローバル化を加速させていく当社海外戦略の一翼を担っています。

台湾に進出してから約半世紀、日東精工グループの活動が高く評価されたことを励みに今後も良い製品づくり、ならびに日本と台湾交流に貢献できるように邁進してまいります。



(右) 高雄市の陳菊市長
(左) 表彰される旭和螺絲工業の
総経理 村山育生(当時)

<http://www.shiho.com.tw/>

当法人財教育は業界の垣根を超えて伝播 大垣書店で大型キャンペーン

2016年12月から「大垣書店」（京都を中心に28店舗の大型書店チェーン）で当社の人財教育を紹介する『人生の「ねじ」を巻く77の教え』（ポプラ社）の販促キャンペーンを開催しています。年間数万点が発行され、発売後すぐに店頭から消える書籍がほとんどであるにもかかわらず、発売後2年半以上経過しても、同書が大々的に取り上げられるのは異例中の異例のこと。

きっかけは同書を読まれた欧州菓子の大手「ユーハイム」の河本武会長の「いい本に出逢えました」という言葉であることは前号で紹介しましたが、発行元、ポプラ社奥村傳会長のご尽力で大垣書店につながっていただきました。写真は本店で大垣

守弘社長(左)と当社社長材木正己。また右下の写真は大垣書



店四条店での大きなパネル2枚を使っての店頭展開です。『人生の「ねじ」を巻く77の教え』と、やはり当社の人財教育などを紹介した『驚きの地方創生「京都・あやベストスタイル」』（扶桑社）を平積みにして گذاけています。人づくりの大切さ、次世代へつなげる思いは、業界の枠を超えて伝播していきます。



※キャンペーンは旗艦店である四条店や三条店などで開催されており、すべての店舗ではありません。

NHK「ニュースチェック11」で 受験生応援ねじが大きく紹介されました

当社ゆるみ止めねじ「ギザタイト」を合格祈願用に特別加工してプレゼントするキャンペーン。昨年12月1日のキャンペーン



2017年1月7日読売新聞（夕刊）1面初日にNHK「ニュースチェック11」で、スタジオの人気キャスター・桑子真帆さんのコメント入りで紹介されたこともあり、この日だけで800件3000個以上の応募がありました。また1月7日の読売新聞夕刊では記事として大きく取り上げられるだけでなく、1面の目次に写真紹介されるなどし、全国から多数のご応募をいただいています。若手もベテラン社員も一緒になってプレゼント商品の袋詰め作業に大わらわですが、応募者皆様からの真剣な思いと後の喜びの声が励みになっており、当社では「受験生応援ねじ」は冬の風物詩として定着しつつあります。



●3月1日に第4回最終受付開始予定です。詳しくはホームページをご覧ください。

お客様満足度120%を実現する 期待の新製品が目白押し

2016年12月に2つの新製品をリリースしました。

ひとつはファスナー事業部の「CFタイト」で、セルフタッピングが難しいとされていたCFRP板



NXドライブSD600T

に対し、強度低下を抑え安定した締結が可能なセルフタッピングねじです。そしてもうひとつは産機事業部の「NXドライブSD600T」で、こちらは高速・高精度・高機能を追求したねじ締めドライバの新シリーズとなります。また今年になってからも1月13日に「KATAX(カタックス)-CI」を新発売、これは高強度材に対しセルフタッピングに必要なねじ先端部位だけを高周波熱処理で硬化させるという新しい技術を駆使したものです。当社の人財教育テキストに「今日花はいっぱい咲いている、しかも明日咲くつぼみもいっぱいある」と記載していますが、常によりベターを心がけ、新しいものを提供し、お客様満足度120%を目指してまいります。

「定説」は絶対ではない 再検証してみよう

すべての真理はみな暫定的なものである

かつて哲学者の梅原猛さんが自説の誤りを認めたことが、話題になりました。「出雲大國は存在しない」という説を唱えていたのですが、道路建設がきっかけで出雲郊外に遺跡が発掘され、その存在が証明されたからです。文系理系に限らず新しい論拠が出てくれば「定説」はいくらでも変わります。絶対的なよりどころとなるはずの科学的真理でさえ、崩れるような真実が発見されれば過去のものになっていくわけです。科学的真理なるものは（それを否定する材料がないから、いまのところは真理にしておこう）という約束の上になり立った「仮説」に過ぎません。「すべての真理は、科学的なものといえども、みな暫定的なものである」。

どのような命題も突きつめれば「今のところ間違いがないようだ」「多数の人が今はこちらを採用している」という暫定的なものですから、私たちは「一般的に正しい」とされていることについても「検証」していくという態度をもっていくことが大事です。とくに長年やってきた方法は絶対的なものだと思われやすいので、これに疑いの目をもってみることは難しいかもしれませんが。しかし必要なことです。

「CHANGE」をキーワードにスタートしたオバマ政権も、新たにトランプ政権に変わりました。私たちも周囲を見直し、今のやり方で本当にいいか再検証し、いい方向にチェンジしていきましょう。

これはカール・ポアーという哲学者の言葉ですが、噛みしめてみる価値があるでしょう。



このコラムは当社日東精工の人財教育に約40年携わっていただいた経営コンサルタント蒲田春樹氏が監修した言葉や教えを経営企画室で再編集して紹介するものです。なお、当法人財教育を一般向けにまとめた「人生の『ねじ』を巻く77の教え」(ポプラ社)も版を重ね、また国内だけでなく海外版も発行されています。



不可能を実現した中東和平プロジェクト

京都・綾部市は戦後、日本で初めて「世界連邦都市宣言」を行ったところです。平和を宣言、看板を掲げる都市は多いのですが、綾部市は「中東和平プロジェクト」を平成15年から主導しています。

ねじのある街・あやべの魅力

これは、イスラエルとパレスチナ双方から紛争で肉親や知人を亡くした子どもたちを日本に招いて、一緒に過ごすことで憎しみの連鎖を断ちきろうという試みです。「話は素晴らしいですね。でも実現は無理です！」と誰もが、外務省もはじめは

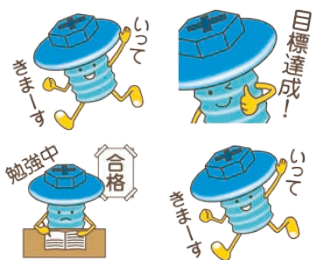
木で鼻をくくる態度だったそうですが、実現。当時の小泉純一郎首相を感激させ、後には麻生太郎首相もこのことを国連演説で紹介しています。そしてこのプロジェクトは岡山市や徳島市、金沢市などへと引き継がれ、再び綾部でも実施するなど、これまでに10回実施されています。不可能と誰もが思ったことを、あきらめないで道を探る、まずやれることから始める、そして実現させる。こんな素晴らしい風土が、日東精工本社のある綾部市には存在しています。

ねじ大好き!

コラム

日東精工のキャラクターが 千変万化の大活躍

今回は当社のキャラクターについて改めてご紹介します。生みの親はもともと当社ヘインドネシアから研修に来ていたプラスさん。ネーミングを募集して女子大生の春田萌映さんに「ねじ」と「にっとう」を組み合わせ「ねじとくん」と命名いただきました。着ぐるみになって街のイベントに参加するなどすでに人気者ですが、このたびLINEのスタンプとなりました。ねじ、そして、ねじとくんをより身近なものに感じていただければと願っています。



LINEスタンプの購入(ダウンロード)の詳細はホームページをご参照ください。

2016年12月号の住所に誤りがありました。(誤)館→(正)館です。訂正してお詫び申し上げます。